

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	地域住民による給水施設の維持管理体制の構築と強化を通じて、2010 年の地震及びコレラの蔓延による被害が大きかったハイチ西県に属するパルム地域における水衛生環境が改善され、その状態が維持されること。
(2) 事業内容	本事業では、(ア) 安全な水へのアクセス、(イ) 水管理委員会の設置及びその強化、(ウ) 下痢やコレラの予防のための衛生促進、の 3 つの水衛生ニーズに対応した、(ア) 3 地区でのキオスク型給水施設の建設、(イ) 18 か所での水管理委員会の結成・強化、(ウ) 18 か所での衛生促進に取り組んでいる。 (ア) キオスク型給水施設の建設（塩素による水の浄化処理設備含む） ・ グレシエ地区サント：2013 年 8 月より建設開始予定。 ・ レオガン地区ラフェロネ：2013 年 6 月より建設開始予定。 ・ グランゴアープ地区ジャンティ：予定していたすべての建設が完了。 塩素による水の浄化処理設備に関しては、現在水管理委員会と協議中である。水管理委員会は、過去他団体によって設置された設備を使い続けることを希望している。しかし、この設備は維持管理に手間がかかり、また塩素錠剤を必要とするが輸入業者がハイチに 1 業者しかおらず、この錠剤を手に入れるのは容易ではない。さらに、高圧を必要とすることもネックの一つとなっている。今後も協議を継続し、塩素処理に関するトレーニングも予定通り行なう。 本事業開始後、Haut Guerin と Barriere Jeudi 3 においてハンドポンプが故障し、水へのアクセスが困難になったため、それぞれ修理を行なった。 (イ) 水管理委員会の結成・強化（添付表 1 参照） ・ 上記（ア）の 3 地区 ・ レオガン地区において当団体が過去に修復した井戸 15 か所 水管理委員会メンバー選出のためにまずは仮のメンバーを選出し、住民主導で候補者の中から 10 か所において選挙を行なった。各コミュニティ少なくとも 50% の住民が参加する状況で選挙を行い、参加者が 50% に満たない場合は選挙のやり直しを実施した。 当初計画では Cabaret Bas 1 と Cabaret Bas 2 は別々に水管理委員会を結成する予定であったが、住民との話し合いの結果、1 つの水管理委員会として統合した。 Bois Aubee においては、ハリケーン「サンディ」の影響で井戸周辺の土地が崩壊しつつあり、今後の激しい降雨で井戸の崩壊も想定されるため、住民との話し合いの結果、事業地を Duplessis に変更した。（2013 年 5 月 27 日変更報告）

	(ウ) 衛生促進 (添付表2 参照) 衛生促進ボランティアに関しては、基本的には1人のボランティアが20世帯をカバー可能な人数設定にし、選出が完了した。しかし、想定通りにボランティアが集まらなかったコミュニティもあった。また、今後、選出されたボランティアがモチベーション低下により辞めてしまうことを想定し、現時点でモチベーションのある人員は想定以上だとしてもボランティアとして選出した。各地区の水管理委員会の選出選挙では、衛生促進ボランティアもサポート役を担った。 当団体のこれまでの経験により、衛生促進を向上させるため新手法を導入し、衛生促進ボランティアは本事業期間終了までそれぞれの状況や理解度に合ったトレーニングを受けている。今後、トレーニングを継続し、戸別訪問や衛生キャンペーンを実施する。
(3) 達成された効果	(ア) キオスク型給水施設の建設 (塩素による水の浄化処理設備含む) <水へのアクセスと給水量> ①家庭調査による水の使用と消費は、給水施設の引き渡しが終わる次第、調査を開始する。②給水所の利用世帯カバー率については、各地域全世帯の地理情報を収集しており、データ化でき次第、カバー率を算出する。③給水所での水汲み時間も、給水施設の引き渡し完了次第成果を確認する。 <水質> ①水質検査結果、及び②塩素による浄化処理後の塩素残存量はそれぞれの給水施設完成時に調査を行う。 (イ) 水管理委員会の結成・強化 ① 18の水管理委員会の継続的な機能 5月末時点において10か所で選挙を行い、水管理委員会メンバーが選出された。 ②給水源が井戸であるコミュニティに関しての徴収率 メンバー選出が完了した地域からトレーニングを開始しており、5か所で水管理委員会への利用登録と料金徴収が始まった。(別添資料「表1. 水管理委員会設立状況」参照) 住民同士がそれぞれお金の管理に関して信用していないという現状から、徴収プロセスやステップ等の説明を、住民を集めて当団体が行った。住民が利用登録を行ない、料金徴収まで時間を要する見込みであるため、引き続きサポートを行なう。 (ウ) 衛生促進 ①80名の衛生促進ボランティアの選出が完了した。申請時点では95名を選出することを予定していたが、世帯数の調査結果や実態を反映したボランティア数を確保した。(別添資料「表2. 衛生ボランティア数」参照) ②事前 KAP 調査では、94.2%は水を飲む前処理をしていると答えた。(そのうち58.5%がアクアタブ、35.5%は塩素を使っているとの回答。)しかし、通常、水処理が適切に行なわれていない場合が多く、人々の知識は乏しいと言えるため、衛生促進活動や浄化処理設備の設置によって適切

(様式3)

	に行えるよう事業を通してサポートする。 ③塩素ディスペンサーの使用状況は、塩素ボックスが設置された後に調査を行なう。
(4) 今後の見通し	ハリケーンや大雨などの天候の影響で事業地へのアクセスや活動が難しくなることがなければ、予定通り事業期間内に完了する。